

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 720 号 令和 3 年 5 月

令和 3 年度中国地区獣医師会連合会定期総会報告

— 藏内勇夫日獣会長がワンヘルス講演 —

会長理事 田 中 尚 秋

恒例の標記定期総会が、前年度担当県であった（公社）岡山県獣医師会主催により新年度早々の 4 月 8 日（木）正午から岡山駅前の ANA クラウンプラザホテル岡山で開催されました。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の収束がなかなか見通せず、逆に、変異株の台頭がめざましく第 4 波の流行が懸念されている中でもあることから、今回の総会も昨年度同様、中国地区 5 県の獣医師会から主に会長・常務理事の参加で開催されました。当会としては、種々の会合への出席を控えている折、万が一の場合は獣医師会館の閉鎖を余儀なくされることから小職のみの参加といたしました。来賓として日本獣医師会の藏内勇夫会長が出席され、議事に係るご助言をいただきながら、総会終了後はワンヘルスのご講演を拝聴することができました。以下、当日の概要を報告いたします。

開催にあたり岡山県獣医師会の春名章宏会長からコロナ禍の中での出席、平素からの協力等に対する謝意が示され、また藏内会長のご出席に感謝の念が示されました。監査については、このような状況下であることから、Zoomにより実施していただいたとのことで、島根県の安食政幸会長に感謝の意が示され、令和 2 年度は、ほとんどの行事が中止になったことから負担金の多くが繰越金となったため、その取扱いについて、また今年度の獣医学術中国地区学会は広島県担当であるが、開催の可否等について協議いただきたいこと等が述べられ挨拶とされました。

続いて日獣の藏内会長から挨拶があり、令和 2 年度の年次大会は中止となったが、代替企画として Web によるオンラインセミナーで複数回のシンポジウムを開催し多くの参加者があったこと、今年度の大会は来年 1 月 21 日（金）～23 日（日）、神戸市で開催予定であること、また令和 4 年 11 月、アジア獣医師会連合（FAVA）福岡大会を福岡市で開催予定であること等が示され多くの参加者要請がありました。また、現在、愛玩動物看護師法の円滑な施行、マイクロチップによる登録制度等について鋭意検討中であることが示され、COVID-19 の惨禍、（従業員に陽性者が出て）動物病院を一時閉鎖せざるを得なくなった所があること等の紹介もありましたが、我々は「コロナには負けない！」という気概を持って対応していきたいという力強い言葉がありました。

来賓挨拶後、春名会長が議長となり、第 1 号議案 令和 2 年度事業報告及び収支決算について、第 2 号議案 令和 3 年度事業計画（案）及び収支予算書

（案）、第 3 号議案 2021 動物感謝デーへの対応について、第 4 号議案 令和 4 年度負担金の徴収（案）について、第 5 号議案 役員の選任について、第 6 号議案 諸会議・講習会等の輪番について、順次議事の審議に入りました。

冒頭、春名会長の挨拶にあったとおり令和 2 年度行事はすべて中止となり、多額の繰越金（1,136,001 円）が出たことから、令和 3 年度の各県獣医師会負担金のうち構成獣医師割合額（250 円/人）分は徴収しないこと、令和 3 年度の事業計画（案）は一応実施するものとして計画してあるが、COVID-19 の状況を見ながら判断していく（中止もありうる）ということ、10 月 2 日（土）、東京都恩賜上野公園不忍池周辺エリアで開催予定の 2021 動物感謝デーには参加しないこと、役員の選任については、輪番どおり今年度会長は広島県の木原敏博会長、副会長は小職、監事は岡山県の春名会長ということで、すべて全会一致で承認されました。その他の輪番については、山口県は日本獣医師会地区理事、職域別部会の委員として「小動物臨床部会」「動物福祉・愛護部会」の委員を推薦しなければなりません。なお、産業動物・小動物・公衆衛生講習会については、今年度、来年度とも担当となるものはありません。

今年度の獣医学術中国地区学会は広島県担当で、10 月 16 日（土）～17 日（日）、ホテルグランヴィア 広島で計画されていますが、詳細は地区学会幹事会で決定されることとなっています。これも COVID-19 の状況次第で不透明な状況です。来年度は、山口県が中国地区獣医師大会・中国地区学会の引受け県となることから、今から少しずつでも準備を進めていく必要があると考えています。最後に柴田範彦副会長から円滑な議事進行への協力に感謝の念が示され閉会となりました。

暫休休憩後、藏内日獣会長によるワンヘルスに係る講演が始まり、まず、昨年 12 月福岡県議会定例会に議員提案された「福岡県ワンヘルス推進基本条例」が可決・成立したことの紹介がありました。成立までに長い年月を要したこと、県議会議員として二十数年ぶりに質問に立ち福岡県の取組みについて質し、前向きな回答を引き出すことができたこと等の紹介がありました。世界に先駆けて制定された「福岡県ワンヘルス推進基本条例」については、①人獣共通感染症対策、②薬剤耐性菌対策、③環境保護、④人と動物の共生社会づくり、⑤健康づくり、⑥環境と人と動物のより良い関係づくりの 6 つ

の柱の推進によって、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に取り組むこととされています。条例では基本理念(県民の責務)を示し「県の役割」「市町村の役割」「医師、獣医師及び医療関係者の役割」等が明記されていて、これでワンヘルスの実践が進むのではないかという思いを伝えられました。

県は、必要な基盤整備として「ワンヘルスセンター」を整備すること、国へ「アジア防疫センター(仮称)」の誘致を目指すことなどを表明、福岡県保健環境研究所が中核拠点となるようワンヘルスに関する機能を充実すること、併せて家畜保健衛生所をすべての動物(家畜、愛玩動物、野生動物)を所管する組織に改編した「動物保健衛生所」(2枚看板案)とすることが示されました。福岡県民から「ワンヘルスちゃんね?」とよく聞かれることがあるので、(公社)福岡県獣医師会は一般向けに一目でわかるようにパンフレットを作成されたとのことで、6つの課題をわかりやすく解説されています。2016年、北九州市で開催された「One Health」に関する国際会議で『福岡宣言』が採択され、実践する段階に入ったということで、福岡県はワンヘルスの先進県になったと自負しておられましたが、まさにその通りだと思います。災害は①気象災害、②自然災害、③生物災害の3つに分類されるが、ワンヘルスとはまさに生物災害に対する備えだと思ってい

ることを述べられ、地域を守り社会の持続的発展目標を実現するためには、ワンヘルスをしっかりと推進する必要があること、ワンヘルスに係る福岡県の取組み、福岡県獣医師会の取組み等について、福岡県獣医師会作成の雑誌(「ワンヘルスこれまでこれから」)等の資料を参考に詳しく説明していただきました。最後に、令和4(2022)年11月12日(土)~16日(水)開催予定の第22回アジア獣医師会連合(FAVA)大会への多くの方の参加を要請して終了されました。お陰でたいへん有意義な時間を過ごさせていただきました。



(公社)福岡県獣医師会作成のパンフ・雑誌

リレー随筆

開院して2年がたちました

この度、県職員時代の先輩で公私ともに大変お世話になりました県庁支部の吾郷先生よりバトンを受けましたゆうなんどうぶつ病院の友好と申します。

当院はこの4月で無事開院2周年を迎えることが出来ました。おかげさまで最近では少しずつではありますが診察の件数も増え、充実した毎日を過ごさせて頂いております。ですが、2年も経ちますと病院まわりの環境整備に手がかかることが増えてきました。気がつくとも駐車場の雑草が伸び、落葉がたまってくるなどもあります。田舎特有の苦勞も出てきました。病院のすぐ前の川沿いに桜並木があり(田布施町の開花標準樹があります!）、桜の時期には絶景で多くの花見客の方で賑わうのですが、葉桜になったところから毛虫が大量生産されはじめ川とは反対側の当院にどんどんと向かってきます。その時期の朝の掃除はひたすら毛虫の駆除から始まります。去年はそれに加えて出窓のサッシの隙間に蜂が巣を作っていました。とりあえずスズメバチではなさそうだったのでどうしようかなと考えたあげく唯一の出入り口となっている穴をガムテープで塞いでみたところいつのまにか蜂はいなくなっていました。夜に雨でもないのに全身雨合羽に身をつつみ作業していたのはかなり怪しさ満載だったと思います。

何か環境美化に向けて出来ることがないかなと考えたところ正面入口横の花壇をほとんど手入れしていないことに気がつきました。当院は元々他の方が店

熊毛支部 友好 将也
(ゆうなんどうぶつ病院)

舗+住居として使っていた建物をリフォームしたもので、その花壇も前からあり、種が残っているのか時々花が咲いていました。よし、花を植えて花壇を作ろうと思い立ったのですがこれまで小学校の頃に雑誌の付録についていたプチトマトを植えたくらいの経験しかなかったのでネットで調べたり、妻に手伝ってもらいながら始めました。まず、培養土を入れて土を作り、花の苗は色のバランスを考えながら手前に低い花、奥に高い花…という具合に。隙間だらけですがどうにか花壇ばいものが出来上がりました。チューリップは見本の写真と全く違う色の花が咲くこともあるんだなということを初めて知りました。



最近では近くを散歩されているご年配の方が花壇の指導をしてくださるのでありがたく参考にしています。今まで全く興味がなかったことをしてみるのも案外いいものですね。次は何を植えてみようかなと楽しみが一つ出来ました。

次回は県職員時代の同期で、大阪で臨床の腕を磨いて帰ってこられたシラナガ動物病院の福江美智子先生(徳山支部)にお願いします。

新入会員紹介

はじめまして



初めまして。この度、生まれ育った山口県宇部市にて新規開業したくまがいペットクリニックの熊谷堯之（くまがい たかゆき）と申します。

まず、はじめに、私自身が山口県獣医師会に入会させていただく際に、ご協力いただいた宇部厚狭支部支部長 米澤 弘雄 先生ならびに現会員である諸先輩方に感謝申し上げます。また、多くの方が拝見されるこの山口県獣医師会報にてこのような形で執筆させていただくのは大変恐縮であり、慣れない執筆にて見苦しい箇所もあると思いますが、お付き合いいただければと思います。

昨年までの約7年間、都内動物病院にて小動物臨床獣医師として研鑽を重ねてまいりました。勤務獣医師時代は、外科を得意とする院長の方針もあり、腹部外科はもちろんのこと、呼吸器外科・胸部外科・整形外科などあらゆる手術経験を積むことができました。また、母校である日本獣医生命科学大学では、内科学教室研究生として所属し、同教室教授である小山秀一先生の下で主に循環器疾患の勉強をしてきました。

多忙な勤務時代の中でも、何より多くを学べたのは飼い主様との付き合い方でした。当時の院長は飼主と話す時間を最重要視し、患者様の気持ちを汲み取るのが非常に上手でした。患者様の話を聞く姿勢、簡潔に重要なポイントを話せるインフォーム力、その子にあった治療を提供する技術、スタッフからの絶大な信頼、などすべてをもって獣医師として自身

宇部厚狭支部 熊谷 堯之

（くまがいペットクリニック）

の目指すべき姿でした。一方、新卒で入った自分は、問診で聞かなくていいことを聞き、病態への興味にしか目が行ってないのもあり何度も指摘され、何度も挫折しました。患者様のお考えやお気持ちがあったこそ治療ということさえも分かっていなかった自分を今でも恥ずかしく思っております。獣医師としての経験を積んでいく中で、自分の行う治療にも少しずつ自信が生まれ、生意気にも既存のやり方への疑問や限界を考えるようになり、自分主体で病院をやりたいと思いつつ日々を過ごしておりました。

昨今、新型コロナウイルス感染症が世間で騒がれている中での開業には、病院経営的にも多少なりのリスクを承知しておりました。しかし、やはり幼いころからの夢である『宇部市で動物病院を開きたい』という気持ちに変わりはなく、たまたま実家の土地が火事に遭った後で、空いていたこともあり、開業いたしました。いざ開院してみると少しずつ患者様に来ていただけるようになり、微力ではありますが小動物医療において地域貢献ができていく実感も湧いております。将来的には病院としてのスキルアップはもちろんのこと、周辺の動物病院様と連携をし、より多くの小動物臨床の発展を目指しております。また、山口県獣医師会に関わる一獣医師として、小動物臨床はもちろんのこと、公衆衛生や家畜保健に関する社会的役割も担っていけるよう精進したく考えております。まだまだ若輩者の私ではございますが、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

県獣会報 [書評]

「ダチョウはアホだが役に立つ」

山口支部 中間 實徳

本書の著者は、私の大阪府立大学獣医学科32年後輩の卒業生で博士課程修了後、大阪府立大学獣医学科准教授を経て40歳で京都府立大学生命環境科学研究科教授となり、2020年に51歳の若さで京都府立大学学長に就任した新進の研究者です。

本の内容はダチョウ抗体を作製するまでの経緯を面白く関西弁で書かれています。

第1章 ダチョウってどんな鳥？ そのすごさとアホさ

最大の特徴は鈍感さと、類まれな回復力。偶然気づいたダチョウの新たな魅力。恐竜からあまり進化していない面白さ、等等。

第2章 ダチョウ研究23年、その悲喜こもごも

泡と消えたダチョウブーム。研究の前に立ち足かかるダチョウの凶暴さ。血液から卵へ、発想の大転換。マスク開発を最優先した理由。ダチョウ抗体による産学連携がスタート。皇室の方々もマスクをご愛用。経済効果は末端で700億円規模、等々。

第3章 ダチョウの抗体が秘める無限の可能性

普通のマスクではできない「予防」ができるわけ。卵から抗体を取り出すメカニズム。熱に強いので加工しやすい。腸まで届くのは酸に強いから。ダチョウ抗体で花粉症がラクになるしくみ。万病の元・歯周病とも闘ってくれる。

第4章 鳥少年がダチョウの博士になるまで

小5で吃音が治って学校に通いだす。生き物を解剖した経験と愛鳥の死が原点。高卒で工場に就職、エアコンの室外機作りに励む。大学院で研究費を稼ぐために始めた「往診専門病院」。カナダ留学で遺伝子操作テクニックを磨いた。獣医の特権・野鳥飼育の楽しさ。

第5章 新型コロナウイルスに立ち向かうダチョウパワー

発生後すぐに中国から問い合わせが相次ぐ。世界に先駆けて抗体精製に成功。1羽で年間800万枚のマスクに対応可能。ダチョウ抗体マスクは「カジュアル・イノベーション」。

おわりに

著者は最後にこのように述べています。学長というのは大概、お年寄りの方がやるものなのに、51歳でホンマにやっていいかと、心配してくれる人もけっこういました。就任したのは2020年3月で、コロナ禍の真っただ中、コロナ対策ばかりの1年だった。筆者が若い研究者に望んでいるのは、学問とビジネスをどう両立させるか、そのあたりの感覚を磨いてほしい、ということです。筆者が留学していたカナダの教授に比べると日本の給与は3分の1くらいです。ビジネスと学問を両立させ、研究を多くの人々ために役立てるイメージを持つ。そうした学生や研究者がこの先たくさん出てくれたら、と願ってやみません。

以上、著書の中にかれている5章の中から、適当に私が選んだ項目を挙げました。獣医師と書かずに獣医と書いているのは著者の原文のままです。何事にもめげずに立ち向かっておられる塚本康浩・学長に敬意を表したいと思います。

書名：「ダチョウはアホだが役に立つ」 塚本康浩著
発行所：幻冬舎 191pp 定価：1,400円+税
ホームページ アドレス：<https://www.gentosha.co.jp/>



ものづくりの余熱

徳山支部 三 谷 藍

(三谷獣医科病院)

会報をご覧の皆様こんにちは。コロナ禍による生活の変化で、趣味が増えてしまった！というお話を良く伺うのですが、かく言う私もそれに漏れておりません。

今回は、私が最近ハマっている木工について書いてみようと思います。

皆さんは“ものづくり”はお好きですか？

私は子供の頃から絵を描いたり、端材で何か作ったり... と手を動かして居ることが好きな部類の人間でした。小学生の夏休みには図鑑で見た川魚を木材から掘り出してみたくてどこからか木っ端を手に入れて彫刻刀片手に木屑まみれになった記憶があります。しかし彫刻刀と小刀以外の工具を持ち合わせていなかった事に加え、加工していた木材が大きかったため荒堀の作業に非常に手間取り、忍耐力の無さも相まって、残念ながら下書きした線まで刃が届くことなくいつの間にか木片を見かけなくなった苦しい思い出があります。

時は過ぎて社会人になり、美術館や展示会など専ら鑑賞する側に身を置いていたのですが。コロナが問題になるかならない頃から木工作家さんと懇意にさせていただくようになり、週末は彼女の作業場に入り浸りって遊ばせて貰う事が多く(... というか毎週?)綺麗に手入れされたノミや木槌、チェーンソーなどの扱いの指南を受けながら、カトラリーやお盆の作り方を学んでおります。実に20年余ぶりのものづくり熱です(笑)

まだ作った数は少ないながら、木の種類や木材の乾燥具合によっても削り出す感触が違って毎回新鮮な気持ちで楽しんでいるのですが、初仕事は胡桃の木を使ったティースプーン作りでした。

スプーンと言えば、やはり口当たりが大事です。慎重に丸いノミに力を入れてひと削り、ひと削り...

スプーンのボトムあたりに先端に向かって深すぎず浅すぎない深さ目指して掘り進めます。ある程度深さが出たら今度はボトムから柄の方に向かって刃をぬきます。ボトムが一番深くなるので、そこがちょうど木の目を折り返す形になり、刃のぬく方に細心の気を配る必要があります。ここが上手くできると、木工家さんがめっちゃくちゃ褒めてくれます。そして何より口に入れた時の舌触りがとても気持ちいい(笑)コツはゆっくり刃を入れて力を入れすぎないこと。じっくり。焦りは禁物です。



ボトムの表の処理が終われば今度は裏の丸みを平ノミや小刀を使って削り出し、そのまま柄を好みの形に成形して軽く鏝がけとオイルを塗り込んで完成!! 正味2時間半くらいの作業時間です。しかし、木屑を削り出すサクッ、サクッとした感触が本当に心地よく、いつまでも削っていたい衝動にかられてしまいます。

そしてこの病みつき作業に病院スタッフを引きずり込んだところ、今ではスタッフとその家族を含めたみんなの定期レクリエーションになっています。ここまで人を夢中にさせる木工の魅力は、ノミの一刀毎に悩みやもやもやが削ぎ落とされていく感覚で心が軽くなったように感じるところだと私は思います。“諸事に忙殺されてココロがもやもやされている方”におすすぬな手遊びとして僭越ながらご提案させていただきます。蛇足ですが、完成したティースプーンは3日で愛犬の狂牙にかかり、残念ながら木っ端に

変わり果てました。ですが!これしきでめげずに、末永い趣味として続けていこうと思います。

最後になりましたが、徳山支部の編集委員に就任

する事となり己の乱筆乱文に不安しかありませんが、どうぞ任期終了までよろしくお付き合い頂けると幸いです。ご拝読誠にありがとうございました。

協力依頼

家畜伝染病発生時の防疫措置に係る協力者の募集について

事務局

令和3年4月19日付け令3畜産振興第116号により山口県農林水産部長から高病原性鳥インフルエンザや豚熱をはじめとする特定家畜伝染病が発生した際に、県職員だけでは迅速な防疫措置が困難となる有事の際の獣医師等の民間団体協力者リスト作成の依頼がありました。

つきましては、ご協力頂ける方は、令和3年5月20日(木)までに本会あてお申込みいただきますようお願いいたします。

なお、従来お申し出いただいている方は継続させていただきたく存じますので、ご都合の悪い方はお申し出ください。(電話:083-972-1174)

事務局からのお知らせ

先般、会員の皆様に会員専用バナー閲覧用のID、パスワードをお送りしたところです。お忙しいでしょうが、各種お知らせ等もご活用ください。また、「学術情報」のバナーに、山口獣医学雑誌第1号(創刊:昭和49年1月)から第47号(2021年12月)をPDF化して掲載しております。また、「学会・セミナー情報」に今年度の年次学会、地区学会、県学会関連のお知らせ等の掲載を予定しておりますことをお伝えします。

令和3年度学会運営委員会(予定)

- 1 日時 令和3年6月24日(木) 13:30~
- 2 場所 山口県獣医師会館
- 3 協議事項 令和3年度山口県獣医学学会の開催について
- 4 その他 学会運営委員会終了後に、山口獣医学雑誌編集委員会を引き続き開催します。

令和3年度職域部会委員会(予定)

- 1 日時 令和3年7月1日(木) 13:30~
- 2 場所 山口県獣医師会館
- 3 協議事項 令和3年度講習会・研修会の開催について

お願い

会員の異動報告について

春の人事異動及び異動に伴う会員名簿の記載事項等変更が生じた場合には、速やかに会員異動通知票により所属支部事務局まで、報告されますようお願いいたします。

事務局だより

4月8日	・令和3年度中国地区獣医師会連合会総会 岡山市(ANAクラウンプラザホテル岡山)	4月23日	・会報編集委員会	山口市(県獣会館)
4月13日	・県獣会館防災点検	山口市(県獣会館)	4月28日	・令和3年度畜産経営総合対策協議会
4月22日	・KDDI維新ホール視察	山口市(KDDI維新ホール)	4月9日、22日	・事業推進会議

次回編集委員会 5月24日(月) 13:30~

山口県獣医師会会報 第720号 令和3年5月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話(083)972-1174 FAX(083)972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 上田晋平

発行責任者 田中尚秋

印刷 コロニー印刷



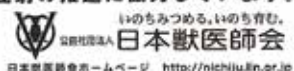
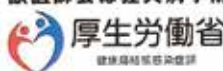
狂犬病予防注射はお済みですか？

犬の飼い主は、狂犬病予防法に定められた以下の義務を守りましょう。

- ① 飼い犬の登録 ② 狂犬病予防注射の接種 ③ 鑑札・注射済票の装着**

狂犬病は、犬だけでなく、人にもうつる病気です。
発症した場合、ほぼ100パーセント死に至ります。

獣医師会は狂犬病予防注射の推進に協力しています。



詳しい情報は、厚生労働省ホームページ「狂犬病について」をご覧ください。

狂犬病 厚生労働省

お問い合わせは
最寄りの保健所、
市町村の担当窓口まで。